

身障ぐんま

しんしょう



前列左から 群馬県視覚障害者福祉協会 会長 茂木 勤 氏
銀メダリスト (群馬県点字図書館 主事) 唐澤 剣也 氏
群馬県身体障害者福祉団体連合会 会長 杉田 安啓 氏
後列左から 群馬県身体障害者福祉団体連合会 常務理事 三田 功 氏
群馬県社会福祉事業団 理事長 塚越 日出夫 氏

東京パラリンピック2020銀メダリスト 唐澤剣也氏
この度、東京パラリンピックに出場し、5000mで2位という結果を残すことができました。
たくさんの方々との協力と応援のおかげで、銀メダルを獲得することができました。
支えてくださった皆さんには心から感謝しています。
次は3年後にパリパラリンピックが開催されます。今回の順位を超えるように頑張りますので、引き続き応援よろしくお願いします。

も く じ

② …群馬県障害政策課長就任にあたって

③ …日身連会長表彰を受賞して

…県身障連理事会の開催

…県身障連定時総会の開催

④ …副会長就任にあたって

…理事就任にあたって

⑤ …吉岡町身体障害者自立更生会会長あいさつ

…女性部会会長あいさつ

…青年部会だより

⑥ …第22回群馬県障害者作品展作品募集

…第36回障害者による書道・写真全国

コンテスト作品募集

…県身障連の主な行事 (9月～12月)

⑦ …新型コロナウイルスの検査について

⑧ …常務理事のひとりごと

前橋市新前橋町 13-12
群馬県社会福祉総合センター内
TEL (027) 255-6274
FAX (027) 255-6275

E-mail:gunmakenshinren1@xp.wind.jp

発行責任者 杉田安啓

群馬県障害政策課長就任にあたって

群馬県健康福祉部障害政策課長 中村 祐一

令和3年4月1日から群馬県健康福祉部障害政策課長を拝命しました。公益社団法人群馬県身体障害者福祉団体連合会の皆さまには、本県の障害福祉行政の推進に多大なる御理解、御協力いただき、厚く御礼申し上げます。

本県では、平成30年3月に策定した「バリアフリーぐんま障害者プラン7」のもと、障害の有無にかかわらず、お互いを尊重し、住み慣れた地域で自分らしく生きる社会の実現のため、総合的な障害者施策を推進してまいりました。特に、近年は、「群馬県障害を理由とする差別の解消の推進に関する条例」を制定し、共生社会の実現に向けた取組の一層の充実を図っています。また、「新・群馬県総合計画（ビジョン）」においても、「すべての県民が、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる自立分散型の社会」の構築を理念に掲げ、障害者施策についても、従来からの取組に加え、新たな課題にも積極的に取り組んでまいりました。

こうした経過を踏まえ、これまでの取組を継承しつつ、近年の障害者施策や環境の変化に対応し、実効性のある施策を推進していくため、今後6年間の本県における障害者施策の基本計画となる「バリアフリーぐんま障害者プラン8」（計画期間：令和3年度～令和8年度）を策定しました。この計画では、基本理念の「全ての県民が、障害の有無にかかわらず、互いに人格と個性を尊重し合いながら、地域で共に暮らし、支え合い、安心して暮らすことのできる共生社会の実現」を実現するため、3つの基本目標として、①お互いの理解促進、共生社会の実現に向けた取組の推進、②自己決定の尊重、意思決定の支援、当事者本位の総合的支援、③安全で安心できる地域づくり、を設定した上で、各種施策の推進に取り組んでいます。

さて、現在、新型コロナウイルス感染症は、変異株の出現により感染拡大が続いています。皆さまの生活、活動にも様々な制約が生じており、各種の外出・活動の自粛に伴う接触・交流機会の減少をはじめ、その影響も長期化しているところです。

このような状況ですが、本年7月から9月にかけては、東京2020オリンピック・パラリンピック大会が開催され、障害者スポーツに注目が集まりました。パラリンピック大会は、基本コンセプトの一つとして「多様性と調和」を掲げており、人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治、障害の有無など、あらゆる面での違いを肯定し、互いに認め合う、共生社会を育む契機となるような大会を目指しています。

このような共生社会の実現に向けた取組を進めていくためには、障害者関係団体、当事者をはじめとした関係する皆さまとの連携が欠かせません。皆さまのご意見を丁寧に伺いながら対応してまいりたいと考えておりますので、引き続き、県の施策に対して御理解、御協力をよろしくお願い申し上げます。



日身連会長表彰を受賞して

群馬県渋川市議会議員 中澤 広行

第66回日本身体障害者福祉大会に於いて日身連会長より群馬県を代表して永年功労表彰を賜り誠に光栄至極であります。

今年の大会は～コロナ禍を超え、強い絆で～と題して、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、会場参加型を取りやめネット配信により開催されました。記念講演は、元厚生労働省事務次官の村木厚子さんによるものでした。

生きやすい地域社会を創る～障害者団体に期待すること～と題しまして行われた講演は、障害のある人との出会いで学んだことの実例と障害者福祉施策の歴史、これからの展望など、非常に聴きごたえのある内容でした。現在でも配信されておりますので、是非ご覧いただければと思います。

このような権威ある大会で受賞いたしましたことを糧にこれからも精進してまいります。結びに、関係各位に深く感謝申し上げます。



県身障連理事会の開催

本連合会理事会は、当初令和3年5月14日に開催を予定していましたが、新型コロナウイルスが終息していないことから書面による会議とし、提案した議案に対し全理事から同意が得られ、かつ全監事から異議がなかったため5月28日に決議があったものとみなされました。提案議案は次のとおりです。

- 第1号議案 令和2年度公益社団法人群馬県身体障害者福祉団体連合会事業報告について
- 第2号議案 令和2年度公益社団法人群馬県身体障害者福祉団体連合会決算について
- 第3号議案 定時総会の招集について
- 第4号議案 理事の選任について

県身障連定時総会の開催

令和3年6月29日、本連合会定時総会が県社会福祉総合センターで開催されました。

杉田会長の挨拶、来賓の群馬県障害政策課中村祐一課長の祝辞の後、議長に杉田安啓会長、議事録署名人に内田安男理事（富岡市身体障害者更生会）、根岸俊夫理事（沼田市身体障害者団体連合会）を選出し、次の議事の審議を行いました。

- 第1号議案 令和2年度公益社団法人群馬県身体障害者福祉団体連合会事業報告について
- 第2号議案 令和2年度公益社団法人群馬県身体障害者福祉団体連合会決算について
- 第3号議案 理事の選任について

第1号議案及び第2号議案については、一括して事務局から説明があり、細野直久監事から監査報告が行われた後、審議され原案どおり承認されました。

第3号議案については、木村功理事の辞任に伴い新理事を選任するもので原案どおり承認されました。
新理事 茂木 勤 氏

副会長就任に当たって

群馬県身体障害者福祉団体連合会副会長 茂木 勤
(群馬県視覚障害者福祉協会会長)



この度の役員改選に伴い、本連合の副会長に就任させていただくことになりました茂木 勤です。本連合が群馬県の身体障害者福祉の増進に貢献してきたことは言うまでもありません。これからも本連合の未来が輝けるものとなるよう微力ながら努力してまいりたいと思います。

さて、本連合に加盟する団体に共通する課題は会員の減少、高齢化等による役員の担い手不足、青年層の減少、財政のひっ迫などです。しかし、会員数が減少しても会員の声を束ね圧力団体として行政機関を動かすためにも、団体の存在は極めて重要であり価値の高いものです。従って団体の存続、財政基盤の確立等に向けた取り組みが必要です。

障害者差別解消法が施行され、約5年が経過しました。しかし、差別の解消、合理的配慮の提供は障害者の生活を豊かにしているか、はなはだ疑問です。住み慣れた地域社会で障害者が生活できる共生社会の実現に向けて加盟団体、連合役員、事務局職員と手を携え一丸となって努力してまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

理事就任に当たって

群馬県身体障害者福祉団体連合会理事 飯島 邦敏
(伊勢崎市身体障害者福祉団体連合会長)



会員の皆様におかれましてはお元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。

この度、群馬県身体障害者福祉団体連合会理事に選任されましたので、会員の皆様方には宜しくご指導いただきますようお願い申し上げます。

私は「DET群馬」という団体にて共生社会推進の為に研修や講演会を行っておりますがまだまだ多くの人の考え方は「障害＝障害者」という昔の「障害の個人モデル的」考え方が根強く残っており、社会の側が多様な人に合わせた環境や制度などになっていないことが「根本的原因」という「障害の社会モデル」的捉え方に県民すべての考え方を改める必要性をととも強く感じています。

みんなが分け隔て無く支え合い、地域で自分らしく暮らせる群馬県に変えていく為にも、会員の皆様と共に共生社会実現に向け活発な世代を超えた交流活動や啓発などをしていくことで社会は必ずもっと良くなります。



吉岡町身体障害者自立更生会 会長あいさつ

吉岡町身体障害者自立更生会会長 佐藤 眞一

私は今年度から会長になりました佐藤と申します。令和3年度身体障害者自立更生会総会を書面で行いまして、今年の計画の中には旅行の計画もありましたがコロナの影響もあり、中止にさせていただきました。

新型コロナウイルスの話題が常についてまわっている事と思います。

東京オリンピックとパラリンピックも関係者のみで無観客で開催しております。

新型コロナウイルス感染者も今は大分増えていますが、ワクチンの開発もされ接種も進んできています。

群馬県も市町村も元気がでてくると本当に良いと思います。それから身体障害者の皆さんも手を取り合ってこの難局を頑張って乗り越えましょう。



女性部会会長あいさつ

群馬県身体障害者女性部会会長 青木 眞澄

今年度より女性部会の会長を務めさせて頂く事になりました青木眞澄です。不慣れではございますが皆様のお力をお借りし、又、御協力を頂きながら楽しい会となる様に頑張りたいと思いますので宜しくお願い致します。

女性部会員も御多分に漏れず高齢化が進んでおります。運転等も段々心配になって来ている私達です。女性部会ではありますが、送迎をして下さるパートナーの男性も是非行事にも一緒に参加して下さいれば幸いです。

新型コロナウイルス感染症が少なくなって来た7月21日に局長様、滝沢様に御参加頂き役員会を開催いたしました。今後の行事予定等話し合いましたが全く先が見えない昨今です。

コロナが終息しましたら女性ならではの楽しい行事をして「会に参加して今日は楽しい一日だったなあ」と思える様な女性部会を皆で作って行きましょう。



青年部会だより

群馬県身体障害者福祉団体連合会青年部会会長 原口 とし子

コロナ禍で会員のみなさんとも、顔を合わせる機会がなくなり淋しく思っています。7月中旬頃は、感染も下火でしたので令和3年7月18日(日)に役員会議を開催しました。たくさんの役員の方が集まってくれました。コロナの感染しだいで、これからの活動が出来るか分かりませんが、鮎の食事会、グラウンドゴルフ大会(富岡)を計画しました。今の状態では計画を実行できるか見通しがたちませんが、会員のみなさんと楽しく行事ができるよう一日も早いコロナの終息を願っています。

局長さんの方からも若い人たちに入会してもらってと、身体障害者世代間交流の話もありました。

第22回群馬県障害者作品展作品募集

障害者への理解を深めるとともに、障害者の自立と社会参加の推進を図ることを目的に作品の画像を県身障連ホームページに掲載(ウェブ開催)します。

開催日時 12月3日(金)～2月28日(月)

作品画像掲載場所 群馬県身体障害者福祉団体連合会ホームページ

出品作品 県内の障害者が制作した絵画、書道、写真、手工芸、立体作品

申込方法等 所定の申し込み用紙(各団体長に配付済み)に必要事項を記入し団体長にお申し込みください。

申込期限 各団体長から県身障連への申し込み期限は10月15日(金)です。

第36回障害者による書道・写真全国コンテスト作品募集

公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会主催の書道・写真全国コンテストの作品を募集しています。

各団体長、市町村及び社会福祉協議会等に配付済みの応募用紙に必要事項を記入し、作品と一緒に9月17日(金)までに県身障連にご提出ください。

県身障連の主な行事(9月～12月)

月 日	行事名・開催場所
9月 9日(木)～10日(金)	身体障害者特別研修会 みなかみホテルジュラク 中止
9月 14日(火)	本部役員会・理事会 延期
9月 17日(金)	第36回障害者による書道・写真全国コンテスト募集締切日
9月 25日(土)	身体障害者世代間交流会
10月 15日(金)	第22回群馬県障害者作品展募集締切日
10月 18日(月)	身体障害者相談員研修会 高崎市総合福祉センター
10月 23日(土)～25日(月)	第21回全国障害者スポーツ大会(三重とこわか大会) 中止
10月 26日(火)	日身連秋季関東甲信越静ブロック協議会代表者会議 書面開催
10月 31日(日)	グラウンド・ゴルフ大会
11月 15日(月)	第72回群馬県身障連福祉大会
12月 3日(金)～2月 28日(月)	第22回群馬県障害者作品展【応募期限 10月15日】
12月 8日(水)	身体障害者特別研修会 高崎市総合福祉センター

新型コロナウイルスの検査について

群馬県済生会前橋病院 検査科 萩原 佳幸

既に1年以上にわたる新型コロナウイルスの感染拡大によって、皆さんの日常生活にも大きな影響が出ていることと思います。そこで、今回は新型コロナウイルスの【検査について】お話したいと思います。

新型コロナウイルスの検査は大きく分けて抗原検査と遺伝子検査に分けられます。

①抗原検査は、新型コロナウイルスの表面にあるたんぱく質を検出する検査法になります。

鼻咽頭からの検体採取が基本となりますが、唾液を用いた検査も可能になりますので、お年寄りから小さなお子様まで幅広く対応ができます。検査時間は40～50分程度で結果が分かります。

②遺伝子検査

PCR検査に代表される遺伝子レベルでウイルスを調べることができる検査になります。

新型コロナウイルスに特異的なRNA 遺伝子配列を増幅し、これを検出する検査法です。特徴として検出感度は高いのですが、検査時間が長くなり（1～5時間）専用機器や熟練した技術者が必要になるなど様々な準備が必要になります。



いろいろある遺伝子検査の中でも当院の新型コロナウイルスの遺伝子検査は【15分】で結果が出せる検査装置を使用しています。一般的な遺伝子検査よりも簡単で早く結果が得られることが特徴の検査機器になります。（写真参照）

アメリカのホワイトハウスでも使用されていたようです。

(IDNOW) コロナ遺伝子検査機器

【検査の注意点】

前述した各検査については、検査の特性上、【検出の限界】というものがあります。

感染しているにもかかわらず検査をしても陰性になる、いわゆる偽陰性というものが一定数存在してしまいます。このことも踏まえた上で検査結果を見ていただけると良いのではないかと思います。

検査結果が陰性だからと言って絶対感染していないとは言えませんので、できる限り3密（密閉・密集・密接）を回避できるような生活スタイルをもうしばらく続けていただくようお願い致します。1日でも早く元の生活に戻れるように皆さんと一緒にこの苦難を乗り越えていきましょう。

常務理事の ひとりごと

第32回オリンピック競技大会(東京2020)が、新型コロナウイルス感染拡大の緊急事態宣言下で、東京都を中心に7月23日から8月8日までの17日間開催されました。

私も当初はコロナ禍の開催に反対の立場でしたが、始めてみると、テレビはオリンピック番組が中心に放送され、多くの人が世界中のアスリートのパフォーマンスに心を動かされました。

今回は、新型コロナウイルスの影響で史上初の1年延期となった「東京2020」について振り返ってみたいと思います。

1 オリンピック招致からの経緯

①東京大会決定

2013年9月7日、アルゼンチンのブエノスアイレスで開催されたIOC総会で共に立候補したイスタンブールとマドリードに投票で上回り東京が選ばれました。

②国立競技場をめぐる

2012年、国際コンペで新しい国立競技場のデザイン案にザハ・ハジド氏のデザインが選ばれましたが、建設費が膨らんだため、計画を白紙に戻し、隈研吾氏のデザインに決定しました。

③エンブレムをめぐる

東京オリンピックの開幕まで5年となった2015年7月24日、大会エンブレムが発表されましたが、他のグラフィックデザイナーが過去に作ったロゴマークと極めて似ていたため、改めて2016年4月に市松模様と藍色が特徴のエンブレムが選ばれました。

④招致をめぐる贈賄疑惑

2019年6月、招致委員会の理事長だったJOC(日本オリンピック委員会)の竹田会長は、招致活動のコンサルタント料として2億2000万円をシンガポールの会社に振り込んだことを認め退任しました。

⑤マラソン・競歩の札幌移転

2019年11月1日、IOCは、東京の過酷な暑さと湿度の高さを理由にマラソンと競歩の会場を札幌に変更しました。

⑥延期の決定

2020年3月24日、IOCは新型コロナウイルス感染拡大による「パンデミック」を理由に1年程度の延期を決定しました。

⑦コロナ禍での開催

7月9日、政府や東京都、組織委員会などは、23日に開幕するオリンピックを無観客で開催することを決定しました。

また、政府は7月12日から8月31日(当初は8月22日、途中で延期)まで東京都に4度目の緊急事態宣言を出し、オリンピックは緊急事態宣言下で行われることとなりました。

2 参加者について

IOCによると、205カ国(地域等を含む)から選手

約11,111人とその他、関係者(スタッフ・報道関係者等)数万人が参加しました。

3 競技について

33競技、339種目で実施され、前回のリオ大会から5競技(野球・ソフトボール、空手、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィン)が追加されました。

1964年の東京オリンピックでは、20競技、163種目が行われたので、ほぼ倍の規模で実施されたことになります。

「オリンピックは参加することに意義がある」(クーベルタン)という言葉を目にしたことがありますが、国の威信をかけたメダル争いが最も注目されます。

今回日本は金-27、銀-14、銅-17の計58個を獲得しました。これは、アメリカ(113個)、中国(88個)に次いで第3位となります。

1964年の東京オリンピックでは、金-16個、銀-5個、銅-8個なので、ほぼ2倍獲得したことになります。

特に新種目全てでメダルを獲得したことは注目すべきポイントです。

4 参加アスリートのコメント

アスリートからはインタビューやSNSなどで多くのコメントを聞くことができました。

そのほとんどが厳しい環境の中で開催した大会関係者や日本国民への「感謝」の言葉でありました。

前橋市が一昨年11月から南スーダンの選手・コーチ計5人を受け入れてきたことは全国に知られています。

5 海外メディアの報道

「日本は不可能を可能にした」「今回のオリンピックは東京以外では開催できなかった」「日本はオリンピック開催のためにやるべきことを全てやった」また、「日本はオリンピックを開催すべきではなかった」「無観客となった競技場は幽霊船と化した」など、賛否両論ありました。

6 選手・関係者の期間中の感染状況

8月8日(閉会式)時点で大会関係者(選手・スタッフ等)の感染者は合わせて436人となりました。

7 期間中の東京都の感染状況

東京都の感染者数は、7月23日(開会式)に1,356人で、8月8日(閉会式)には4,066人と、17日間で約3倍になりました。

また、最も多かったのは8月5日で5,042人でした。

今年の夏はデルタ株の脅威が増し、人流を止めることは難しく、20代・30代の感染者が急増し、40代・50代の重症者が増えました。

私はオリンピック開催には反対の立場ではありませんでしたが、最悪の事態だからこそ最善を尽くし、大きな事を成し遂げると関係者の皆様の努力と成果に心から敬意を表したいと思います。